

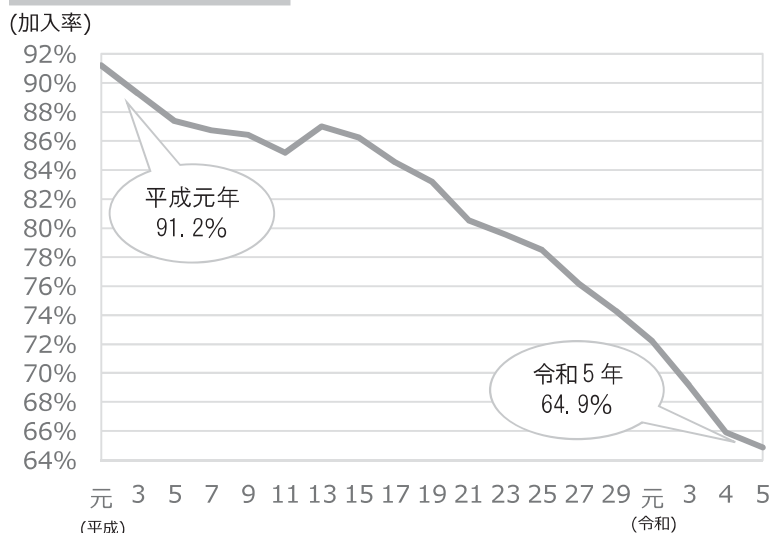
I 章 - 自治会・町内会の必要性を再認識しよう

明石市の現状

市内には475の自治会・町内会（以下、自治会等）がありますが、加入率はゆるやかな低下傾向にあります。平成元年に91.2%あった加入率が、令和5年には65%に低下しています。住民の価値観の多様化や居住形態の変化により、自治会等に無関心になり、必要性を感じていない人が増えているのが現状で、全国的にも同じことがいえます。

加入率の低下は、自治会等の活動の停滞につながり、地域の活力低下を招くこととなります。

自治会加入率の推移



令和5年4月現在の状況

自治会等の数	475 団体
平均世帯数 (1自治会あたり)	約186世帯
最少世帯数	3世帯
最大世帯数	2,206世帯
自治会加入率	約65%

コミュニティ・生涯学習課への届出より

自治会ごとの加入率分布

(単体：団体)

区分	今回 (R2.1)	前回 (H27.3)	
90%以上	228	247	-19
70~90%未満	95	73	+22
50~70%未満	22	26	-4
50%未満	22	13	+9

「自治会・町内会運営状況等アンケート」(令和2年1月)より

加入率低下の原因

自治会等の加入率低下の主な原因として、一般的には下記のようなことが挙げられています。

◆生活の利便性の向上や住民の価値観の多様化

- ・簡単に情報や物が手に入る世の中になり、地域で助け合う機会が少なくなった。
- ・個人主義的な考え方や自治会活動に無関心な人が増えた。

◆少子高齢化の進行・生活スタイルの多様化

- ・単身世帯や共働き世帯の増加、核家族化・少子高齢化により、自治会活動に参加する余裕のない人や、役員になりたくない人が増えている。
- ・高齢による自治会活動に対する負担感が増加した。
- ・高齢者施設への入居等による空き家が増加している。

◆集合住宅の増加

- ・ごみ出しなど、管理組合で十分対応できるので、自治会等の必要性を感じない。
- ・ワンルームマンション等に短期的に居住する人が増加し、自治会等に加入しない人が増えた。

自治会等運営状況について

令和2年1月に、自治会等の活動内容など、実態を把握するためのアンケートを実施しました。その結果について、加入促進の取り組みに関するものを掲載します。

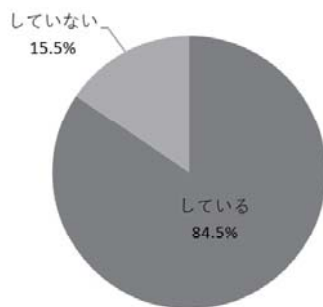
調査対象：明石市内の自治会等 477 団体
調査期間：2020年（令和2年）1月10日～2020年（令和2年）1月31日
調査方法：郵送調査（調査票郵送・回収、調査対象者自記入）
調査内容：自治会等の活動内容や課題、自治会長業務の実態等
回収率：調査票回収数 374 票／有効回収率 78.41%

◆加入促進に関する取り組み ※不明、無回答除く

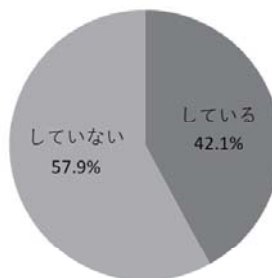
転入世帯に対しては、加入促進の取り組みを行っている自治会等が多数を占めていますが、未加入世帯に対しては、取り組みをしていないと回答した自治会等が約半数を占める結果となりました。

取り組みの方法については下表のとおりです。「その他」では、“ごみ分別カレンダーを加入案内と一緒に持っていく”“自治会独自の加入勧誘セットを渡す”などの回答がありました。

転入世帯に対して (n=355)



未加入世帯に対して (n=309)



取り組みの方法
(複数回答あり)

口頭	198
市チラシ	34
独自チラシ	72
その他	42

加入促進に関する活動事例をP. 23～24で紹介しています。

詳しいアンケート結果のまとめは明石市ホームページからご覧いただけます。

コミュニティ・生涯学習課 (078-918-5004)